

授業コード : 291073

授業科目名 : 吃音学

受講者数: 28 名

担当教員名 : 石毛 美代子

回答者数: 28 名

学 部 :	医療福祉 <input type="text" value="27"/>	総合政策 <input type="text" value="0"/>	科学技術 <input type="text" value="0"/>	無回答 <input type="text" value="1"/>	
学 科 専 攻 :	理学療法 <input type="text" value="0"/>	作業療法 <input type="text" value="0"/>	言語聴覚 <input type="text" value="28"/>	視覚機能 <input type="text" value="0"/>	看 護 <input type="text" value="0"/>
	保健福祉 <input type="text" value="0"/>	生活福祉 <input type="text" value="0"/>	総合政策 <input type="text" value="0"/>	知能情報 <input type="text" value="0"/>	建築環境 <input type="text" value="0"/>
	臨床工学 <input type="text" value="0"/>	無回答 <input type="text" value="0"/>			
学 年 :	1年 <input type="text" value="0"/>	2年 <input type="text" value="1"/>	3年 <input type="text" value="26"/>	4年 <input type="text" value="0"/>	無回答 <input type="text" value="1"/>

設 問 文	5	4	3	2	1	科目平均	大学平均
A:授業への取り組みについて	5 そうである	4 まあそうである	3 どちらともいえない	2 あまりそうとは いえない	1 そうとは いえない		
問1. 授業の欠席回数は何回でしたか ⑤0回 ④1~2回 ③3~4回 ②5~6回 ①7回以上	15	13	0	0	0	4.54	4.55
問2. 授業の他に学習活動(予習・復習・課題・レポートなど)をしましたか	12	13	3	0	0	4.32	4.00
問3. 授業を受講する前に授業概要を確認しましたか	7	9	11	0	1	3.75	3.78
問4. 授業内容でわからないことを先生に質問しましたか	5	9	11	1	2	3.50	3.58
B:学習環境について							
問5. 教室の設備環境(広さ、明るさ、外部からの雑音、実習器具など)は適切でしたか	17	8	3	0	0	4.50	4.33
問6. 受講学生数は(講義受講者数、演習・実習時の教員数など)適切でしたか	17	7	4	0	0	4.46	4.34
C:授業内容・方法・成果について							
問7. 授業は系統的に整理、準備されていましたか	19	7	2	0	0	4.61	4.31
問8. 授業内容は理解しやすかったですか	18	8	2	0	0	4.57	4.11
問9. 授業中に質問しやすい環境でしたか	10	7	10	1	0	3.93	3.89
問10. 教員が指定した教科書や参考書、教材や資料が適切で工夫がみられましたか	14	8	6	0	0	4.29	4.15
問11. 黒板の書き方、ビデオやスライドの使用は適切でしたか	17	8	3	0	0	4.50	4.17
問12. 授業中に声が十分に行き渡っていましたか	13	5	8	2	0	4.04	4.37
問13. 教員は授業中の静寂を保つために適切な配慮をしていましたか	15	5	8	0	0	4.25	4.25
問14. 授業のスピードおよび学習量は適切だったでしょうか	15	9	3	1	0	4.36	4.15
問15. 授業概要または授業始めに提示された到達目標は達成されましたか	16	7	5	0	0	4.39	4.18
問16. 授業内容は興味深く、知的好奇心を触発されましたか	13	11	4	0	0	4.32	4.14
D:授業の全般的印象							
問17. 教員の熱意を感じましたか	15	10	3	0	0	4.43	4.30
問18. この授業で専門的な知識や技術、または豊かな教養が身につきましたか	14	10	4	0	0	4.36	4.21
問19. 総合的に判断すると満足できる授業でしたか	15	10	3	0	0	4.43	4.22

学生へのメッセージ

この授業では、吃音に対して現在行われている治療・支援の方法とともに、吃音研究の歴史や従来の学説について学びました。さらにレポート課題では、授業内容をもとに文芸作品の登場人物にみられる吃音症状を分析・評価する模擬的な症例報告書の作成を行いました。授業内外の学習により、受講生の皆さんにはシラバスに記載された学習の到達目標を達成し、吃音と吃音を持つ人の心理や行動に対する理解を深めることが出来たと考えています。今後とも授業の内容と方法に一層の工夫を凝らしたいと思います。

